
my only story

アネニス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

my only story

【Nコード】

N4684Y

【作者名】

アネニス

【あらすじ】

連載初投稿です。

ぼちぼちやっていけたらと思います。

主人公最強設定ではありません。

見切り発車です。

prologue

数時間前まではぼつりぼつりとしか聞こえてこなかった車のエンジン音が、今ではうるさいくらいに響き渡る。

場所は学校の3階のとある教室。

そこで少女は一人、ぼつんと自分の席につき、もうすぐ始まるテストのため、勉強に勤しんでいた。

ふと少女は勉強していた手を止め、窓の外に視線を移した。

学校の周りを囲う塀の向こう、そのすぐ脇を通る道路では、車がひっきりなしに行き交っているのが見える。

視線をさらに上へと上げる。空はまだ明るいようではあったが、そう時間をおかないうちに日が沈み暗くなるだろうことを思わせた。

少女はイスの背もたれに体重をかけるようにして脱力し、うなだれた。

それから、嫌々ながらに最後のあがきとばかり、教室の正面に掛けられた時計を確認してみれば、6時15分を少し過ぎた頃を針が差していた。

もう少しすれば、見回りの先生がやって来てしまう。

(帰りたくない…。)

勉強を再開し、帰らなければならぬギリギリの時間までやったとしても、もうほとんど頭には入るまい。

ぼーっと外の景色を眺めながら考える。

道路の両脇を彩る並木は、赤や黄色を呈しており、もう秋も本格的となったことを視覚的に知らしめた。

秋が一番好きだ。一年の中でとても過ごしやすい季節であるし、おいしい食べ物が豊富である。秋刀魚、サツマイモ、竹ノ子、栗…。どれも好物ばかりだ。………それに、秋は楽しかった記憶ばかりで嫌な記憶は一つもない。前世の記憶も含めて。 なんて。

(はあ…。 帰るか。)

一つため息を吐いた後、ゆっくりとした動作で帰る準備を整える。最後に忘れ物がないかを確認し戸締まりをして教室をあとにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4684y/>

my only story

2012年1月3日05時47分発行